館長だより
たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館
広報委員会
印刷所
新葉社
飯田市商工会館内

人口	5,638人
男子	2,713人
女子	2,925人
世帯数	1,462戸

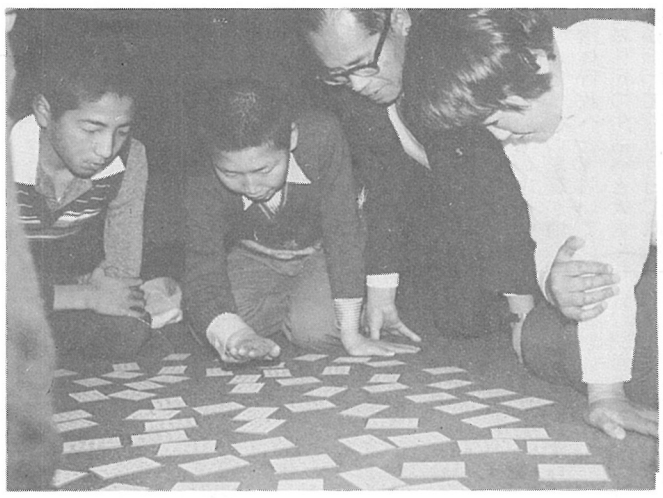
（3月1日現在）

文化祭

目をひくユニークな展示

カルタ取りも登場

『もっとおいないよ！』



「ひさかたの…」　ハイ！

「これ、おばあちゃんのだに。」

昭和五十六年度文化祭が去る二月十三、十四日の両日竜丘公民館で開かれました。昨年から設けられた分館コーナーは、今年もユニークな展示がされ、見る人の足をひきとめていました。

展示の部では、二日間にわたり、分館作品展、青年会・睦会・老人学園作品展・書道・ペン習字、絵画展等一年間の活動の成果が発表されました。

分館コーナーで、特徴的な展示を紹介すると、

〔駄科分館〕　地区の歴史を知るという観点で、忘れられている駄科地区の『小字』についての調査結果が発表されました。

〔長野原分館〕　特に近年人口増加がはげしい中で「躍進する長野原」をテーマに、長野原の戸数の推移、家屋年代別分布について調査結果が発表されました。又、昔の大井川の工事写真が現在の姿と比較して展示されていました。

会、今回初のカルタ大会（百人一首）、グループ芸能発表会が行なわれました。

婦人会、青年会による喫茶コーナーは、大変好評でした。不用品即売会は、婦人会が中心となり、上川路公民館の協力を得て不用品を集め、当日の売上げは、七二、二六〇円で全額を桐林のあゆみ園へ預託したそうです。

二日間を通じ、十四日が小学校の父親参観日と重なったために、子供の参加が少なく寂しい文化祭であった。地道な活動が行なわれている反面、参加者が少ないことは今後に課題を残しました。なお、婦人会より不用品即売会の協力に対する御礼を申してくれとの話がありましたので報告させていただきます。

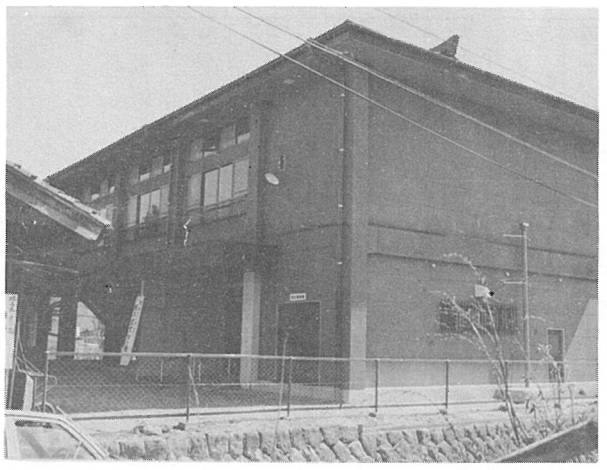
地域の問題をより深く

――竜丘婦人の集い――

私たち青年会では、「地域の婦人と共に住み良い社会作りの、運動を押し進めよう」と活動を進めてきた中で、昨年発足された婦人団体連絡協議会に呼びかけ、各婦人団体の協力で、「竜丘婦人の集い」を開催する事ができました。当日午前には食品と化粧品の公害についての講演、午後は分科会で「子供の問題」「健康と地域とくらしの問題」の二つに分かれて話し合いました。述べ人数50名分科会参加者35名と目標の半分程でしたが、感想には①勉強になった。②皆の経験が聞けてよかった。③来年も聞いてほしい。など参加された、お母さん達にも好評で、分科会では時間が少ないほど話し合いもされました。講演も私たちに身近な問題で非常に勉強になり、参加者の少なかったのが残念でした。

婦人の中では思っていてもなかなかこの様な場が設けられなかったのですが、昨年開催することが出来た事は、参加者が少ないなりにも、大きな成果ではないでしょうか。今後もこういった講演を設け多くの婦人に参加してもらい、又分科会を設ける事により、地域の問題をより深く話し合う事は、婦人にとって地域が生活の場である事を考えると大変重要ではないでしょうか。今回の婦人の集いをきっかけに、各婦人団体で話し合いがされ、それらを持ち寄って来年も是非婦人の集いを開きたいと思います。

現在の社会情勢では、平和の問題もわからないでは済まされない現状まできています。そして、私たちや子供の将来まで脅されている今日では、いろんな問題を話し合い、学習して少しづつでも解決の方向へ持っていかなければならないと思います。その為にも婦団連の一つの活動として、多くの婦人を結集させ、婦人の集いを開催していける様に、押し進めていきたいと思います。



文化、社会教育の殿堂、桐林区民センターが完成。名実ともに立派な区民センターとして発展を望む。

「愛知学園」と防災無線

防火防犯委員会と青少年保護育成会は二月十八日、春日井市の児童福祉施設「愛知学園」を訪れた。今後の防犯活動に役立てようとこの日参加したのは森山委員長はじめ二十三名で、学園の指導課長の案内により園内を見学した。

この施設は、明治四十二年に設立され、少年法で定められた少年院とは異なり児童福祉法による救護院である。収容されている児童は、不良行為、或いはその恐れのある十八才未満の男子七十七名、女子三十名で、小・中学校の課程の学習指導と、家庭的環境の中で性行を改善していく生活指導を、又勤労と責任の自覚、心身鍛練の為に農耕などの作業指導を受けている。園長はじめ教護（教育保護）教母、看護婦、栄養士など三十五名の職員の指導のもと、施設内の寮舎で規則正しい生活を送っている。やがて心身共に健全に成長した児童は社会の一員として退園して行く。

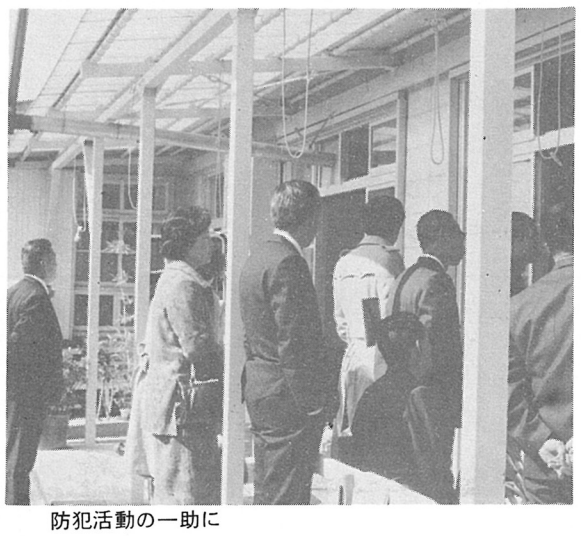
参加者の一人は、三十年間この仕事一筋という指導課長の説明に深い感動を受けたと語っている。

× × ×

防災無線（受信用アンテナと四基のスピーカー）が竜丘支所前の火の見やぐらに二月中旬取り付けられた。

これは、東海沖地震などに備えて、旧市と、それ以外の地区へは一基づつ、支所前へ設置され、地震の警戒宣言、災害時の通信網寸断の場合、又市からの重要な広報などに利用される。

県補助と市の予算で、今後随時増やし、最終的には地区内に十～十五基程度を設置する予定で、受信専用から応信も出来る様になる。最近北海道を中心に大きな地震があったばかりで、必ず来ると言われる東海沖地震に備えて、今後の防災組織の活動が注目されます。



防犯活動の一助に

卓球大会

卓球大会結果

二月二十八日於竜丘小

〔分館対抗〕

一位　桐　林分館
二位　長野原分館
三位　駄　科分館

〔個人戦〕男子の部

一位　斉藤　修平（長）
二位下井田寿美男（長）
三位　原　今朝夫（桐）
〃　木下　武（上）

女子の部

一位　小島　幸子（駄）
二位　河井　由利（桐）
三位　下平千津子（駄）
〃　岡村登美子（桐）

随想リレー〔120回〕

六十の手習い

駄科　市瀬正美

私が満六十才になった秋頃からなんとなく色々な草や木を集めて来ては植えてみるようになりました。それはありふれた、そこいらの土手や野山に普通に目につく雑草や雑木の類であります。

野や山の草花には、花屋さんの店先にあるような華やかさはないが、地味で小さな花でも却って心を引かれるものがあり、今更ながら自然の造化の妙に心を打たれ、自然とは何と素晴しきものかと改めて目を見はることが度々であります。

次には、さて此の草花は何という名前だろうかと思うようになり、聞く人もないので、色々な植物図鑑を買って来てただただしくも一つ一つ名前を探し求めていきました。植物の名前に限らず、人と人との関係においても相手の名前を知らずに親しくはなれません。植物と親しくなるには先づ名前を知ることですが、次にはなぜこういう名前がつけられたかと思うようになり、さらに図鑑や植物名由来などという本を次々と探し求め調べてみるようになりました。

植物名も色々ありまして「ままこのしりぬぐい」「へくそかずら」「りゅうぐうのおとひめのもとゆいのきりはずし」さらに畳表の材料となる「い」というように、いやな感じのするもの、聞いてふき出しそうになるもの、長々しいものや短いものまで実に様々であります。

また日本名（和名）・方言名・学名（ラテン語名）などあり、特に学名のラテン語など私には一寸読めないものですが、それでも繰返し繰返し見ているうちには、うすぼんやりと解る様なところも出て参ります。六十の手習いとはまさにこの事かと思っております。皆様、六十の手習いは如何でしょうか。

ヤブ蚊

食生活の変化で米が余っている。パンやラーメンのせいではない。食品が多様化され、動物蛋白や脂肪が増えている。特に外国大豆油が料理の味を良くしている。「ちょっと待て、その一口が豚になる」の通り、日本人の胃袋は満杯。

言い変えれば、米が日本の土から生産されるに対し、外国の土や食品工場へと変っている。そして今、外国食品（農産物）の輸入拡大が迫られている。

米は、味付もしてない自然な味、連作障害もない健康な土の味である。食生活の変化で人の体はどう変っていくだろうか。肥満児が増え、やせる為の運動も行なわれている。もっと何かが起きそうだ。

日本の土に無関係に食糧が供給されても、日本人の排泄物やゴミ処理は、最終的に土に頼らざるをえない。

連作障害もない水田農業から減反による畑作農業へと変る。土に様々な異常が起きている現状を信毎紙は「信州の土」で科学的に取り上げた多発する連作障害・青草を食べた牛が死んだ・大型機械で耕盤ができ、通気俳水不良に・増える土壌伝染病・都市下水汚泥の農地還元…等々。

米国では、塩害・土壌流出・病虫害の発生。その中で連作障害のない米が栽培され、日本市場を狙っている日本稲作農業の長所応用かもしれない。

食糧危機の前に土壌危機が起きるだろう。もう動き始めている。今は、農民危機の最中。黙々と異常に耐えて生理活動を続ける土、しかし、生産される農産物に、それを食べる人の健康に何かが起こりそうな気がする。そして、土の姿は農民の姿と同じである。

リンゴの町飯田、永久にうまいリンゴの出来る土に根ざした町であって欲しい。

新春放談会

住みよい郷土づくりの為に

恒例の竜丘新春放談会が去る一月三十一日、公民館において午後一時から開かれた。

一九八二年を迎え、ますます進む国際化社会の中で日本の政治、経済の対応も非常に厳しいものとなってきている。その影響が地方自治体行政へと、強いては地域住民の生活へと大きくかかわってくる今日、政治経済情勢に大きな関心を寄せなければならない時となってきている。

真に豊かな、住み良い郷土づくりをどう進めていくのか、テーマは「豊かな地域づくりへの提言」と題して、松沢市長を迎え、公民館役員をはじめ、十数の各種団体それぞれの立場での意見発表があった。

団体発表を総合的にまとめると次のようになる。

一、テーマにそった各種団体の活動指針
二、社会体育施設の充実
三、福祉行政に関する問題と環境浄化について
四、青少年の健全育成と教育問題について
五、交通事故防止の取組みについて
六、地場産業と観光開発について、等、多くに亘って意見発表があり討論された

討論の中で、次の三点について特に意見交換があった。

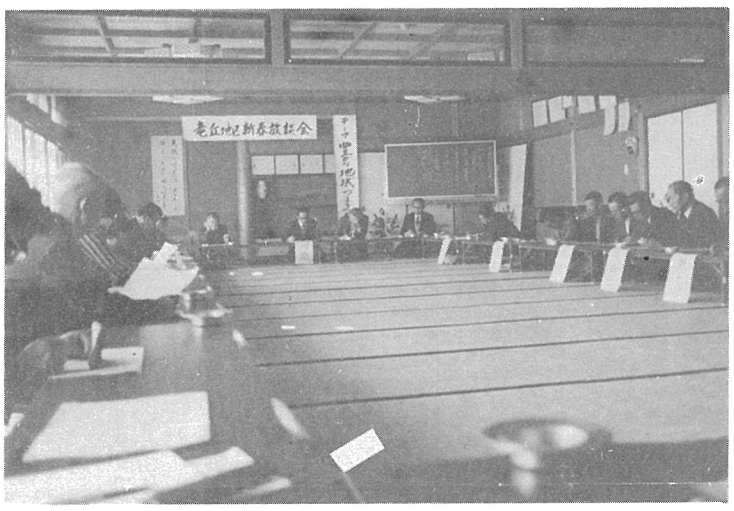
一、ミニグランドの設置（信夫グランドの充実含む）
児童館の建設推進について
二、環境浄化について＝あき缶等、ゴミ一掃による美しい郷土づくりは掛声だけでなく、地域ぐるみの取組みが必要
三、子供の非行問題について＝生活指導として緑中で実施している「愛の一言運動」が紹介された。さらに子供のしつけは、親自身が鏡にとの声があった。

これらの討論に対し市長は、鼎、上郷との合併、市立病院、伊賀良、山本の統合中学問題、さらにモデル定住圏構想などの市がかかえている課題について説明された後、これからの地域づくりは、市が中心で実施するのはもとより、地域でできる事は、住民要求をよく検討し、地域の特色を出し合い解決してもらいたいと臨調答申を厳しく受けとめての発言があった。

この放談会を通じて、各種団体を中心に地域社会全般に亘って巾広い要求、意見が出された。

これらを、あらゆる角度から充分検討し、住民の総意で問題解決、課題の実現へと努力しなければならない。

「豊かな地域づくり」は住民一人／＼の活動、行動への参画を第一歩として、大衆的要求としての広がりの大きさから生まれると信じるものである。



豊かさを求め意見交換

グループ紹介

「小字」の研究

――駄科郷土史同好会――

「寺前と言ってなあ、お寺のうしろにあるのはどういうわけなんな」なんていう鋭いギモンが出た。

「他にもおもしろい地名があるに。……一体どの位あるんな……じゃ、みんなで調べてみまいかな」てな具合に駄科区の小字研究が始まった。小字とは、大字よりも小さい土地区画の意。ちなみに、駄科は大字で、寺前は小字。

現在、住所には小字を用いず、多くが番地のみ。この同好会が発足して一年。忘れかけた小字名をリバイバルさせ、一つ一つ土地台帳に記入する作業。

文化祭に出品したものはタタミ三畳分の駄科区の地図に、小字がすべて記入されている。その数四百余り。井水、寺社、城、街道、古墳、地形などと、その由来は様々。他地区と共通する地名もある。駄科に留まらず竜丘地区全体に係わる歴史、もっと言えば時代の流れと密接な関係を持っているらしい。こうした事から小字名の研究は、地区の歴史をひも解く一つの道標になるのではないか。

幸い、竜丘には豊富な文化遺産がある。しかし、そのままでは原木にすぎない。それを加工、製材にしてやっと価値がでる。当会がしている系統的な調査研究の意義はここにある。

そうした中で、史蹟めぐり、実地踏査、拓本とり、発掘調査など楽しみな計画もされている。一方では、区でも教育、文化事業として、当会に別途補助金を出す事を検討している。そうなれば、いよいよ充実した会の運営が可能になろう。

現在の会員数は三十余名。会長は塩沢義男分館長。毎月四日が定例学習会。会費は年額千円。参加はどなたでも可。最後に一言。

「始めはえらそうに思えたけどな、やっとるうちにおもしろくなって来たっちゅう感じ。…それにもっと若い衆に入ってもらいたいんだに。」

「フム、フム。うちの小字は何だな。」

待たれる第二弾！

「丘の語部たち」

「丘の語部たち」が昨年の春に出版され、好評が寄せられておりますが、この第二集の刊行が企画されています。

お年寄に若い頃の地区のことを書いていただき、それを一冊の本にまとめたこの本は、昨年一〇〇〇部の印刷をしたが、地区内に八〇〇部、地区外に二〇〇部すべてが売り切れ、大変好評でした。

今回その第二集が企画されているのは、昨年の出版記念祝賀会の時に「まだ足りない内容が沢山ある」との意見があり、第二集の刊行に賛同する方が多くいた為で、民俗資料保存委員会で検討した結果、刊行することにしたものです。

名称は「丘の語部たち」第二集とし、内容は第一集で不足している内容の補充を中心とする方針で、特に生活・年中行事・生産の部門で補充をし、又新しく人物編を設け、地区内の居住者や出身者の中での名物男・女を載せるというユニークな計画である。

原稿は、地区内から募集をする方法と、各分館への依頼とし、不足した内容は個人への依頼により補う予定で、すでに五月末日を〆切として地区内への原稿の募集が始まっている。又第一集においては、写真が不足したため、関連した写真の募集もしている。

多くの方の応募により内容を充実させ、後世に伝えたいものです。

原稿と写真の応募をお待ちしております。

「守っていますか」申し合わせ

結婚式の簡素化にむけて

去る一月二十六日に第二回竜丘地区生活改善推進委員会が開かれ、各部落推進状況の発表、推進の具体策と細部の留意点の検討がなされ、三月から四月にかけての山場に備えて生活改善を強力に推進することを全会一致で決議した。

その席上各部落委員より「去年各戸に配布された申し合わせの裏付けとして、竜丘本部の姿勢を具体化し制約された物を印刷して各戸に配布したらどうか、祝事を控えているこの時期にはより一層成果を上げるのではないか」との意見が出された。審議した結果、二月一日付を持って「生活改善の推進について」と明記された印刷物が竜丘全戸に配布され又飯田市の方へも提出されたとのことであります。

その内容は①趣旨として生活改善の必要性を強調し全地区民の協力を得て運動を展開して行く。②経過現段階までの委員会の歩み。③生活改善推進上の留意点として、七項目に渡り具体的に提示されてあります。

その中で・お返し廃止を前提とし今後はお祝いの金額を少な目にして行く。・祝事各家庭は関係の方々に前もって改善の趣旨を伝え「申し合わせ」によって改善して行くことを、予告し実行する。・各部落推進委員は入学等該当の多い物に対し関係者を集め生活改善の趣旨説明会を開き、徹底できるよう努力する。ここに上げた項目は特に大事なことであると思います。委員会の度重なる会合の中出来た具体策であり、委員の方々の真剣に取り組んでいる姿勢がうかがえる。とにかく三月から四月は祝事を控えての生活改善運動の一つの山場に当り、部落推進委員の方々の意気込みも感じられます。地区民揃って趣旨を十分理解し、この時期の実施を成功させ、やがては大きな課題、結婚式の簡素化にむけて地域拡大の輪が拡がって行ってもらいたいものである。

待ちどおしいなアー

小学校二期工事

竜丘小学校の第一期工事が完成したのは昭和五十一年十一月でした。その後体育館も完成して、老朽化している南校舎を、残すのみとなっている。

小学校、PTA、地区民の強い希望により、第二期工事も市議会で決定して、二月から設計に入っている。関係者の要望等も二月末までに済まし、四月末までには設計が完成される予定となっている。

当初竜丘小学校は、十二学級の予定であったが、人口の増加で児童数が増え、十八学級の校舎が必要となり、これに対応できる校舎を建設する事になった。二期工事では、普通教室のほか各種の特別教室も予定しており、外観は、現在の新校舎とのバランスを考え、調和のとれた校舎をと配慮している。

四月には、土蔵の移転工事と、校庭へプレハブ教室を九教室建設し、五月には、南校舎の解体作業が始まり六月から建設工事にとりかかる予定で、完成は、五十八年二月末で、新六年生が新校舎に入れる予定になっている。

子供達が、伸びのびと、学校生活を送れる環境を一日も早くつくってやりたい。

人事（敬称略）

〔就任〕

平沢　英子（保健婦）
伊賀良支所より

渡辺　嘉蔵（公民館主事）
市役所税務課より

小木曽恵子（保健婦）
新　規

〔退任〕

古田　筆（保健婦）
市役所保健室へ
熊谷　悦夫（公民館主事）
市役所農林課へ

あの人この人

◎永遠に幸あれ
（十二月六日～三月九日届出）

森　茂年　上郷町より
倉沢　悦子　時又
吉川　治　駄科より
篠田　誠子　上郷町
久保田益佳　上田市より
下平　洋子　時又
関島　哲男　鼎町
大平　貞子　駄科より
澤柳　善郎　龍江
原　律子　桐林より
植杉　良寛　飯田上
佐々木貴子　桐林より
桜井　哲郎　鼎町
宮島　房恵　時又より

◉伸びよ健やかに

氏名	部落	父名
今村　華子	長	善治
牧島　史恵	駄	計雄
窪田　剛	上	正夫
伊原裕美子	桐	廣幸
桜井　友樹	時	隆治
塩澤　健介	駄	隆
村松美代子	駄	広幸
古田　裕哉	時	仁志
唐澤　慎	桐	喜市
小木曽雄太	時	俊
坂井誠太郎	時	元信
川手　早苗	長	博一
林　里恵	桐	秀寿
幾代　淳子	駄	伸一
下平　直毅	駄	秀弘
久保田朋子	駄	正廣
臼井　淳	駄	裕之
大宮　千春	時	邦伸
遠藤　大地	駄	庄司
下平　和晃	駄	幹雄

■御冥福を祈る

氏名	部落	性別	齢
橋本　静子	上	女	63
小林きくへ	駄	女	70
中村つるの	長	女	82
北林　定恵	時	女	72
小室くまゑ	上	女	69
牧ノ内ミカヱ	桐	女	79
門島はつゑ	駄	女	76
熊谷　ヌイ	駄	女	86
吉川　いし	駄	女	74
古見山　悟	桐	男	81
牧島　なか	駄	女	81
牧内　珍實	上	男	71
林　保茂	桐	男	86

編集後記

読まれる、親しまれる館報を合言葉に、委員一同努力してきました。ここに今年度、最後の館報をお届けします。皆さんの意見、批判をお寄せ下さい。

長年にわたり、館報発行に活躍された坂井利光さん、木下可楽さんが今号をもって退任されました。本当に御苦労様でした。

新委員を迎え、さらに紙面充実に向けがんばります。